

# 〈グリーンな栽培体系への転換サポート〉 取組の概要

## 取組概要

松本園芸推進協議会（事務局：松本農業農村支援センター）では、令和4年度にジュース用トマト栽培において、局所（うね内）施肥技術と生分解性マルチを導入し、化学肥料使用量の低減及びマルチ剥ぎ取り作業の省力化を図る実証を行った。



化学肥料の使用量については、2割削減しても慣行栽培とほぼ同等の割合の良果を収穫することができた。

[参考]実証ほ場における収量調査結果（10株当たり）

調査日	8月31日			9月14日		
	良果	不良果※	良果の割合	良果	不良果※	良果の割合
試験区	9,690g	3,654g	72.6%	11,290g	4,722g	70.5%
慣行区	6,860g	2,068g	76.8%	17,480g	7,344g	70.4%

※日焼け果、割果、着色不良果、病虫害被害果など

## 取組成果

マルチ剥ぎ取り作業については、生分解性マルチを使用するとポリマルチに比べ作業時間がおよそ4分の1となり、作業人員を削減することができた。

[参考]実証ほ場での作業における実測値

作業内容	株拔取り	残渣持ち出し	通路マルチ除去	マルチ除去	合計
生分解性マルチ	150分	0分	0分	0分	150分
ポリマルチ	150分	245分	150分	90分	635分

## 成果の普及（見込み）

普及組織とJA等が連携し、作成した栽培マニュアルをもとに各技術の導入効果や導入時の留意点などの周知を進めており、産地における環境負荷軽減と作業省力化への関心が高まっている。

今後もこれらの取組を進めることで産地への定着を図るとともに、実証技術の導入による生産コストの上昇を含めても導入効果が期待できる経営規模の農業者に対し重点的に普及を推進する。